

相模原看護専門学校

二〇一九年度 推薦・社会人入学試験

【国語】

1 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答はすべて選択肢の記号で記せ。なお、設問の都合で原文の一部を省略している場合がある。

日本という国は、昔からまことに平和であって、戦争は驚くほど少なかった、あるいは他国との競争をほとんど考えなくてもよかった社会であったせいかどうか、はっきりとはわかりにくい、大昔から失点主義という物の考え方が大変強い国である。退役する官吏の挨拶にまで「幸いに大過なくすごせましたことは私のひそかな喜びとするところでありませう」ということが決まり文句になっている。

これをうがってみれば、大過もないということは小功もないということになるのである。日本人は世界の中でも大変 a キョクタンに過ちを恐れる国民であるということは、大昔から攻める場合も得点を期待する功績主義でなく、失点主義の社会だったということからであろう。高度成長時代の時でさえも、失点で人事考課をするという傾向が強かった。その結果、日本では人の足を上手にひっぱる人が出世するとか、何もしない人、真面目ぶる人が出世するというような誤った努力主義が横行している。この誤った努力主義と失点主義は、高度成長時代には全体の中に包み込まれて欠点がわからないが、これからの厳しい社会では今までのようにまくは作用しないだろう。競争に負けて倒産するような会社もでてくる。

本当の競争社会はトライアル・アンド・エラー、 X なしでは、創造なしにはやっていけない世界である。 A、過失や間違いは必然ということになる。そのとき過失というものの考え方がきわめて大事なことになるのである。過失を恐れるどころではなく、過失を肯定することも必要になってくる。

また、日本では間違いない人を立派な、徳の高い人と言ってきたが、実はそういう人は過ちに B コシツするか、何もしない、させないので過たないのか、どちらかであり、ふつうの人にとってはつき合いきれないイヤな奴だとも言える。 B、そういう人は何もしないくせに、何でもまんべんなくしたような顔をしているとか、卑怯至極な人間であるとか、人の足をひっぱるか、責任を C テンカしたり、欠点や過失を塗りつぶすのが大変上手なだけだとか、さらに自己反省の足りない人だとかいう類の人種だからだ。そういう人間はつき合うのに面倒だというだけでなく、ときには過ちをこちらに押しつけられ、破滅してしまふときさえある。もちろん、つき合いにくいとは、こういう人が社会にとって有用であるかないかとか、会社で出世するとかし

ないとかいうことを抜きにしての話だ。

私たちは、どうも創造的行動的人間を不安視し、つき合わず、会社でも重要視しないという傾向を持つ。確かにそういう人は過つが、過ちを持つから人間は楽しいのだ、C 欠点を持つがゆえに友達ができるのだという考え方をもっと大事にしてゆく必要がある。

日本では昔から仲間というのがいた。これはパートナーでもフレンドシップでもなければブラザーフッドでもない。大抵は自分の弱点を共有する連中のことである。

賭事好きで困るとか、女好きで困るとか、あるいは酒グセが悪いとか、そういう欠点を持つ者同士が親しくなったもので、相手の欠点を認めて許し合える仲、心が本当の意味で溶け合う仲間である。そのことは相手の長所をひっぱり合いせず、お互いにそれを伸ばしていけるという特徴になる。

イタリア人は個人としては立派で有能だが、三人集まるとそれを消し合って何もできなくなるといわれる。それはイタリア人に強く見られるが、ヨーロッパ人全体の傾向でもある。そこで組織作りをうまくやり、機能を発揮するよう苦心^{さんたん}惨憺^{たんたん}ということになる。それはこういう仲間という「集団」はヨーロッパ人にとっては存在しないからであろう。

日本人は2大きくなればともかく、数人のグループではそんな苦労はいらぬ。一緒に一、二度酒を飲めばということになるのは、このY という特技のせいであろう。このようなつき合いは、失点主義とは違う。失点的人間との友情である。3ピューリタニズムの考え方を持つアメリカ人にとっては、ちよつと許容しにくい人間関係であろう。

戦後、このピューリタニズムに基づく人間観が日本に入り込み、こういう仲間づくりを認めなくなつたため、日本の失敗人間のつき合いという大切な人間関係を根底からぶちこわし、失点主義を完成した。そうして相手の失点の待ち合いという大変Z 世相の実現ということになってきたのである。

アメリカでは結果主義ではあるが、こういう仲間、互いの欠点を許し合ったり、傷口をなめ合うというような仲間が許されない。駄目な人間、失意をふくんだ人間は麻薬に走り、四千種を越える奇怪なdシンコウ宗教が荒れ狂うこととなるのである。過去の日本では失点主義が横行した反面、そのおかげで人の過ちや人間的弱さというようなものを許し合う仲間を作つて救い

合ってきたのだ。今日の私たちはその救いの意味をかみしめ、間違わない奴ほど世の中でイヤな人間はいないのだ、ということ
を本当に知り、過ちを恐れず、自分の欠点も隠さず、もつと気楽に世の中を送るようになるべきだと思う。真の競争、結果の重
視の社会ではこの日本のつき合い方が失点主義の世界より、**4**はるかに見事な効果をあげるはずである。

くり返すが、失敗もしない、弱点を持たないというような人は存在しない。例えそのように見えても、単にみせかけだとい
うことを日本人はよく知るべきであり、欠点や失敗は、軽率、思慮不足ということがあっても、その本質的原因は人間性が劣
るからではなく、その創造性、行動性ゆえだということである。

(会田雄次『表の論理・裏の論理』より)

問一 傍線部 a～d に相当する漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の **ア～オ** のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- ア** 彼はカンタンに相照らす友だ。
イ 盆栽をタンセイして育てる。
ウ タントウ直入に話をする。
エ 論点をタンテキにまとめる。
オ タンパクな味の料理が好きだ。

- ア** 彼はカンタンに相照らす友だ。
イ 盆栽をタンセイして育てる。
ウ タントウ直入に話をする。
エ 論点をタンテキにまとめる。
オ タンパクな味の料理が好きだ。

- ア** あの兄弟の間にはカクシツがある。
イ 温暖シツジュンな気候。
ウ シツペイ保険に加入する。
エ 財布をフンシツしてしまった。
オ 会見後にシツギ応答の時間があつた。

- ア** あの兄弟の間にはカクシツがある。
イ 温暖シツジュンな気候。
ウ シツペイ保険に加入する。
エ 財布をフンシツしてしまった。
オ 会見後にシツギ応答の時間があつた。

c テンカ

- ア 学費を自分でカセぐ。
- イ キツネが人間にバける昔話。
- ウ お金持ちの家に娘がトツぐ。
- エ 話を付けクワえるのはやめなさい。
- オ 約束をハたす。

d シンコウ

- ア 勢力がキンコウしている。
- イ 政治家とシンコウがある。
- ウ 大学で有名教授のコウギを受ける。
- エ コウキ心が旺盛な人。
- オ 地方を回ってコウギョウする。

問二 本文中の空欄

一つずつ選べ。ただし、同じ記号を二度以上使ってはいけない。

A · B · C

に入る語として最も適切なものを、次のア～オのうちからそれぞれ

- ア しかも
- イ なぜなら
- ウ あるいは
- エ 逆に
- オ そうすれば

問三 傍線部1「うがってみれば」とあるが、この意味として最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

- ア 物事を疑ってかかった見方をすれば
- イ 物事を裏側の視点から捉えた見方をすれば
- ウ 物事の本質を的確に捉えた見方をすれば
- エ 物事の表面上だけを捉えた見方をすれば
- オ 物事の全体像を捉えた見方をすれば

問四 本文中の空欄

X

Y

Z

それぞれ一つずつ選べ。に入る語句として最も適切なものを、次の各群のA～Oのうちから

- A 適材適所
- I 弱肉強食
- ウ 堅忍不拔
- X 試行錯誤
- エ 深謀遠慮
- オ

- A 誰とでもすぐに仲良くなれる
- イ 欠陥性、短所でつながる
- Y 集団、組織をつくるのがうまい
- ウ 過ちや欠点を長所に変えることができる
- エ 以心伝心で相手の気持ちを理解できる
- オ

- ア ややこしい
- イ きびしい
- ウ とげとげしい
- エ おそろしい
- オ あらあらしい

問五 傍線部2「大きくなればともかく」とあるが、その具体的な内容として最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

- ア グループが大きくなれば、組織作りをうまく行う苦労があるにせよ
- イ 成長して大人になれば、信頼できる人間関係を築く苦労はあるにせよ
- ウ グループが大きくなれば、仲間から足をひっぱられるような苦労はあるもの
- エ 成長して大人になれば、組織作りをうまく行う苦労はあるもの
- オ グループが大きくなれば、信頼できる人間関係を築く苦労があることは別として

問六 傍線部3「ピューリタニズムの考え方」とは、本文の文脈ではどのような考え方を指しているのか。最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

- ア 人間の欠点や失敗を許そうとしない、潔癖で厳正な考え方
- イ 組織よりも個人の能力を人間関係の基盤とする個人主義的な考え方
- ウ 優勝劣敗を生存の法則とする現実主義的な考え方
- エ 飲酒などを堕落とする宗教的立場からの禁欲的な考え方
- オ 人間の欠点や失敗を隠すことは正義に反するとする道徳的な考え方

問七 傍線部4「はるかに見事な成果をあげるはずである」とあるが、なぜそのように言えるのか。理由として最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

- ア 欠点や失敗を隠さないことで、その原因と解決策をお互いに話し合うことができるようになるから。
- イ 欠点や失敗時には長所ともなり、思わぬ成功をもたらすこともあるから。
- ウ 厳しい競争社会だからこそ、欠点や失敗を許し合うことで人間的なつき合いができるようになるから。
- エ 欠点や失敗を救い合うことで、組織の緊密度が増して団結できるようになるから。
- オ 欠点や失敗を恐れることなく、自己の能力を積極的に発揮できるようになるから。

《余白》

2 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答はすべて選択肢の記号で記せ。なお、設問の都合で原文の一部を省略している場合がある。

一般に私たちが日常使うことばは、よく考えてみると、いつも同じ使い方をしているわけではないことに気付く。厳密にいえば同じものが二つとなく、同じことが二度繰返されることもない現実世界に生きている人間は、記憶の限界とか、操作が余り複雑になることを避けるために、実際問題としては限られた数の単語を、これも限られた範囲の組合せで処理せざるを得ない。

どの言語にも同音語があったり、全く同じことばを別の意味や、異なる規準で使うことがあるのは、1記号体系を出来るだけ簡単なものに抑えたいという願望の表われと考えることが出来る。

しかし数学や科学などで記号を使う時は、このように融通をきかすことは許されない。ある記号はいつでも用いられても、その意味は常に同一であることが要求される。つまり、ここでは記号は **A** にしか使われない。

これに反し日常言語では、さきに述べた理由により、記号(ことば)はむしろ **B** に使われる方が普通なのである。

この点を具体例で説明しよう。英語で魚は fish である。動物学的に言えば、魚とは一定の体の構造や特徴をもった水棲動物の一種である。この見方、規準からすれば、或るものが魚であるのかないのかは、議論の余地がない。

ところが日常の英語では、動物学の見地からは魚に入らない多くの動物を、魚(fish)と呼んでいる。たとえば shellfish, crayfish, jellyfish, devilfish, cuttlefish は、それぞれ、貝、ザリガニ、クラゲ、タコ、イカであって、動物学的な意味での魚でないことは誰にでも分かる。それなのに fish がついている。これは日本でも、昔は鯨が魚に入れられていたのと、同じ使い方なのである。

このような事実に会おうと、私たち現代人は、昔は学問が発達していなかったから、本当は哺乳類の鯨を、間違つて魚だと思つたのだとか、貝やイカに fish を用いるのは、fish という語を拡張して **C** に使っているのだというふうに説明しやすい。

しかし本当は逆なのであって、もともと水に棲むいろいろな生物を総称するために出来た語が魚や fish なので、それを近代人が新しく動物学的な分類規準という全く別な見方を導入して、魚とはこれこれの性質、特徴をもつ動物だと勝手に決めたのである。

したがって動物学で言う魚と、鯨は魚だと言うときの魚は、むしろ別のことばとする方が正しいくらいなのである。

ところが今ではどの国でも、教育が普及するにつれて、いわゆる **D** な思考と呼ばれる、世界を一元的に整理して考
えるものの方が強くなった。そこで、いま述べたような、これまで日常語を支えていた柔軟で **甲** に富む、同一記号
をいろいろな規準でしかもそれと断わらずに使い分ける便利なやり方が、曖昧だとか、事実に対応していないといった批判を受
けるようになる。

その一つの例が、**2** 日本¹の交通信号における「進め」を示す色は、青が正しいか、緑とすべきかという、よく聞かれる議論に
表われている。この論争は、色彩語にも存在する二つの異なったレベルの使い方を、一元的に解釈しようとする誤解に基づいて
いる。これはまさに、茶色の靴を赤靴となぜ言うのか、と同じ問題なのである。

さて誰かに或る色をした何ものかを指して、これはどんな色ですかと聞けば、緑色だとか白だといった答が返ってくるのが普
通だ。しかし聞かれた人が色彩に詳しい人だったりすると、抹茶色まっちゃですとか、銀鼠色ぎんねずみですといった厳密な用語が出てくるかも知
れない。

このように色彩語の使い方の一つは、色そのものが問題である場合に、その色を指定する用法である。しかし色彩名の使い方
は、これがすべてではない。それどころか一般の日常生活ではむしろ、色彩語を、何か或るものを他の同類のものから区別する
目的で、いわば手がかりとして使うことが意外に多いのである。

たとえば、書店に入って、大体が黒や青、そして白っぽい背表紙の本が並んでいる棚の前で、店員に「**乙**」
と言えば、色として赤味がかかっている茶だったり、むしろオレンジ色と言った方が正確かも知れない本を、黙って渡してくれ
るものである。

このような場合、周りにある同類の本の中から、特定の本だけを選ぶという目的で、その手がかりとして色名を言うのであつ
て、色そのものの厳密な指定が目的ではない。この同類の対象を、色彩を手がかりに区別するための色彩語の用法を、私は「弁
別的用法」と名づけている。これに対し、色そのものを問題とする時の使い方を、色彩語の「専門的用法」とする。

私たちが砂糖について、赤砂糖、白砂糖、黒砂糖などと言う時の色彩語は、まさにこの弁別的用法で使っている。他にも赤土
―白土―黒土、赤犬―白犬―黒犬、赤蟻―白蟻―黒蟻、そして赤金あかがね（銅）、白金しろがね（銀）、黒金くろがね（鉄）、黄金こがね（金）など、伝統的
な日本語には、このような色そのものとしては必ずしも正確ではない色名を、同類からの区別という目的で多用している。

そして今度は、赤砂糖を示して、この色は何色ですかと聞けば、大抵の人は茶色ですと答えるのである。この時の「茶色」は一種の専門用語として使われているということになる。

面白いことに、古くからの日本語で、赤という形容詞をつけた名詞、たとえば赤土、赤犬のような例をたくさん集めると、そのほとんどが、いわゆる赤でないということが分かる。このような事実に基づいて、3日本語では、茶色も赤の一種に含まれるといった結論を導き出すことは間違いなのであって、これは色彩語の二つのレベルを混同したものだということは、既にお分かりと思う。

一般にどの言語でも **E** に色彩語を使うときは、なるべく語形の短い、その色に一番近い基本的な形容詞を使うのが普通である。その方が伝達効率が良いからである。そしてどの色が基本色かということは、言語によって必ずしも同じではない。

(鈴木孝夫『日本語と外国語』より)

問一 本文中の空欄

A

E

ただし、同じ記号を二度以上使ってはいけない。
に入る語として最も適切なものを、次のア～コのうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | 科学的 | イ | 弁別的 | ウ | 抽象的 | エ | 経験的 | オ | 比喩的 |
| カ | 一元的 | キ | 専門的 | ク | 二元的 | ケ | 効率的 | コ | 多元的 |

問二 傍線部 1 「記号体系を出来るだけ簡単なものに抑えたいという願望」とあるが、なぜそのような願望を抱くのか。最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア どの言語においても日常的に使用される言語記号は、コミュニケーションを確保するために、その意味はいつでも用いられても同一であることが要求されるから。

イ 人間の生きる現実世界は無限で多様性に満ちているのに対し、人間の記憶容量は有限であり、操作が煩雑になると言語記号を処理できなくなってしまうから。

ウ 同じことが二度と繰り返されることのない現実世界に生きている人間は、限られた数の単語を限られた範囲の組み合わせで処理することを余儀なくされているから。

エ 教育の普及に伴い、世界を一元的に整理して考えるものの見方が強くなっていく傾向に合わせて、言語記号も簡便にしたいという欲求があるから。

オ 複雑多様な現実世界で生きている人間にとって、全く同じことばを別の意味や異なる規準で使うというように融通をきかすことが、人間関係を円滑にすることに適合するから。

問三 本文中の空欄 甲 に入る四字熟語として最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア 創意工夫

イ 臨機応変

ウ 千変万化

エ 融通無碍

オ 換骨奪胎

問四

傍線部2「日本の交通信号における『進め』を示す色は、青が正しいか、緑とすべきか」という問題について、筆者はどのような考えを持っていると思われるか。本文全体の趣旨を踏まえた上で最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア この問題は、色彩語に存在する二つの異なったレベルの使い方を混同しているのだから、青か緑かという議論は意味がない。

イ 実際に緑色であることは、誰の目から見ても明らかなのであるから、事実に対応させて緑色とすべきだ。

ウ 交通信号の三色は、昔から「赤・黄・青」と言っており生活に馴染んだものになっているのだから、今更変える必要はなく、青でよい。

エ 「進め」を示す色は、他の二色と区別することができればよいのだから、色そのものを問題にして取り上げる必要はなく、青でよい。

オ 交通信号の「進め」を示す色は、他に二色と区別できることが必要であり、実際の色が緑である以上、青と言うのはその区別に混乱をもたらす。

問五

本文中の空欄 乙 に入る言葉として文脈上最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア ちよつとその赤い本を取って下さい

イ すみません、あのオレンジ色の背表紙の本を見せて下さい

ウ すみません、この本を買いたいのですが…

エ ちよつとその茶色の本を見せてもらえますか…

オ すみません、その赤銅色の本を取って下さい

問六 傍線部3「日本語では、茶色も赤の一種に含まれるといった結論を導き出すことは間違い」とあるが、このような間違いを導く原因は何か。最も適切なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

- ア 日常生活上、区別の手がかりとして色名を使うだけで厳密に物事を考えない姿勢
- イ 色そのものの厳密な指定をしなくても日常生活には困らないことへの慣れ
- ウ 同一記号をいろいろな規準で融通を利かせて使うことの便利さばかりの追求
- エ 学問が未発達だった時代における物事を整理して考えることへの未熟さ
- オ 色彩語の異なった二つのレベルの使い方を一元的に解釈しようとする誤解

問七 本文の内容と合致するものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

- ア 水に棲むいろいろな生物を総称するための語である魚や魚は曖昧な語であるから、近代人は、動物学的な分類規準を導入して勝手に定義し直した。
- イ われわれは日常生活において、色彩語の二つの異なったレベルの使い方を混同することなく使い分ける必要がある。
- ウ 日本語で茶色の靴を赤靴と呼ぶのは、色彩語に存在する二つの異なったレベルの使い方を一元的に解釈するという誤解に基づいている。
- エ 日常生活における色彩語の使い方は、色そのものを厳密に指定する専門的な用法よりも、同類からの区別の指標としての用法の方が多い。
- オ 混乱を招かないように、動物学的な分類規準で言う魚と鯨は魚だと言うときの魚の定義を一致させた方がよい。